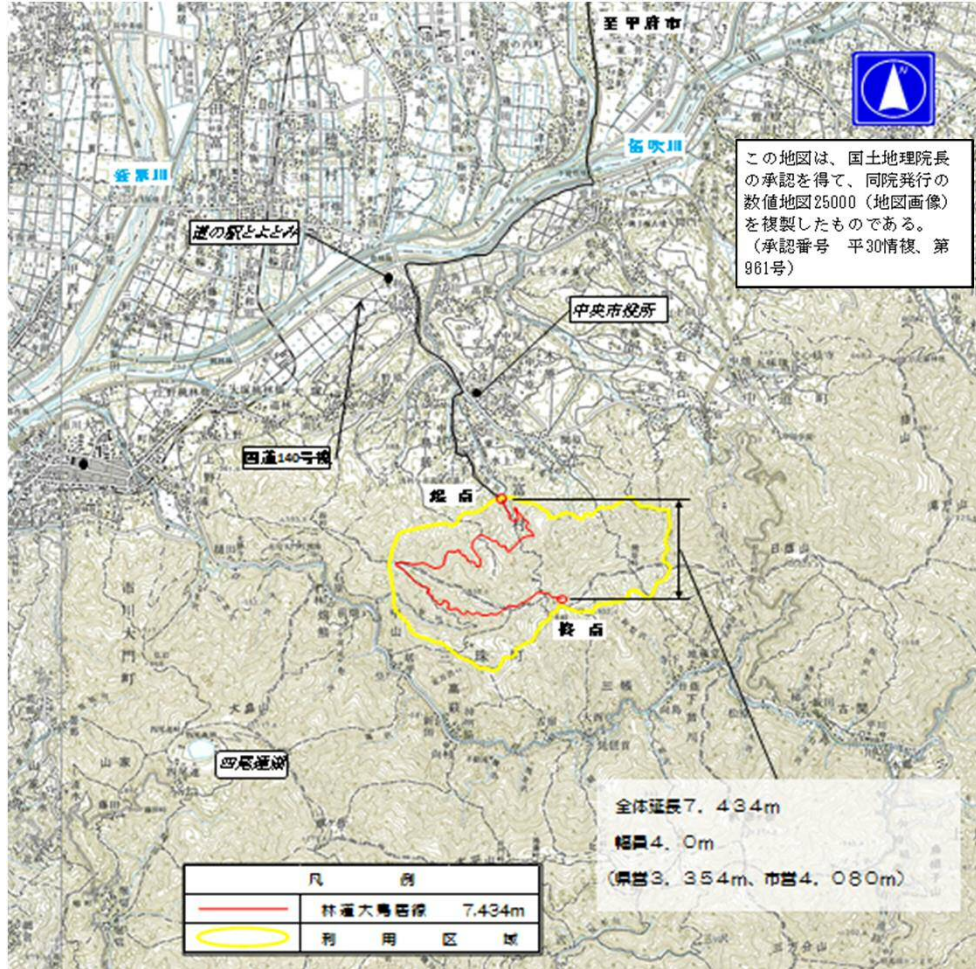


平成30年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補** ・ 県単

事業名	林道事業 [森林管理道開設事業 (国補)]		事業箇所	中央市大鳥居～西八代郡市川三郷町中山～中央市関原	地区名	林道大鳥居線	事業主体	山梨県・中央市
(1) 事業着手年度	S61年度	(2) 事業期間	S61年度～H25年度	(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	1,401百万円	
(5) 事業着手時点の課題・背景				(8) 事業位置図等				
<p>本路線は、中央市大鳥居を起点に西八代郡市川三郷町(旧三珠町)中山を經由し、中央市関原の県有林へ至る総延長7,434mの森林管理道である。利用区域内には民有林、県有林合わせ476haの森林があり、このうち人工林が約55%を占める里山近郊の貴重な森林であるが、アクセス道がなかったことから、森林整備を効率的に実施できない状況にあった。</p>				 <p>この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。 (承認番号 平30情複、第981号)</p> <p>全体延長7,434m 幅員4.0m (県営3,354m、市営4,080m)</p> <p>凡 例 林道大鳥居線 7.434m 利用区域</p>				
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果								
(事前評価未実施)								
<input type="checkbox"/> 主要目標 ○森林整備の効率化 <input type="checkbox"/> 副次目標 ○なし <input type="checkbox"/> 副次効果 ○防火帯・延焼遮断帯の確保 ○リサイクルの推進								
(7) 整備内容 (目標達成の方法)								
森林管理道の開設 L=7,434m、W=4.0m								

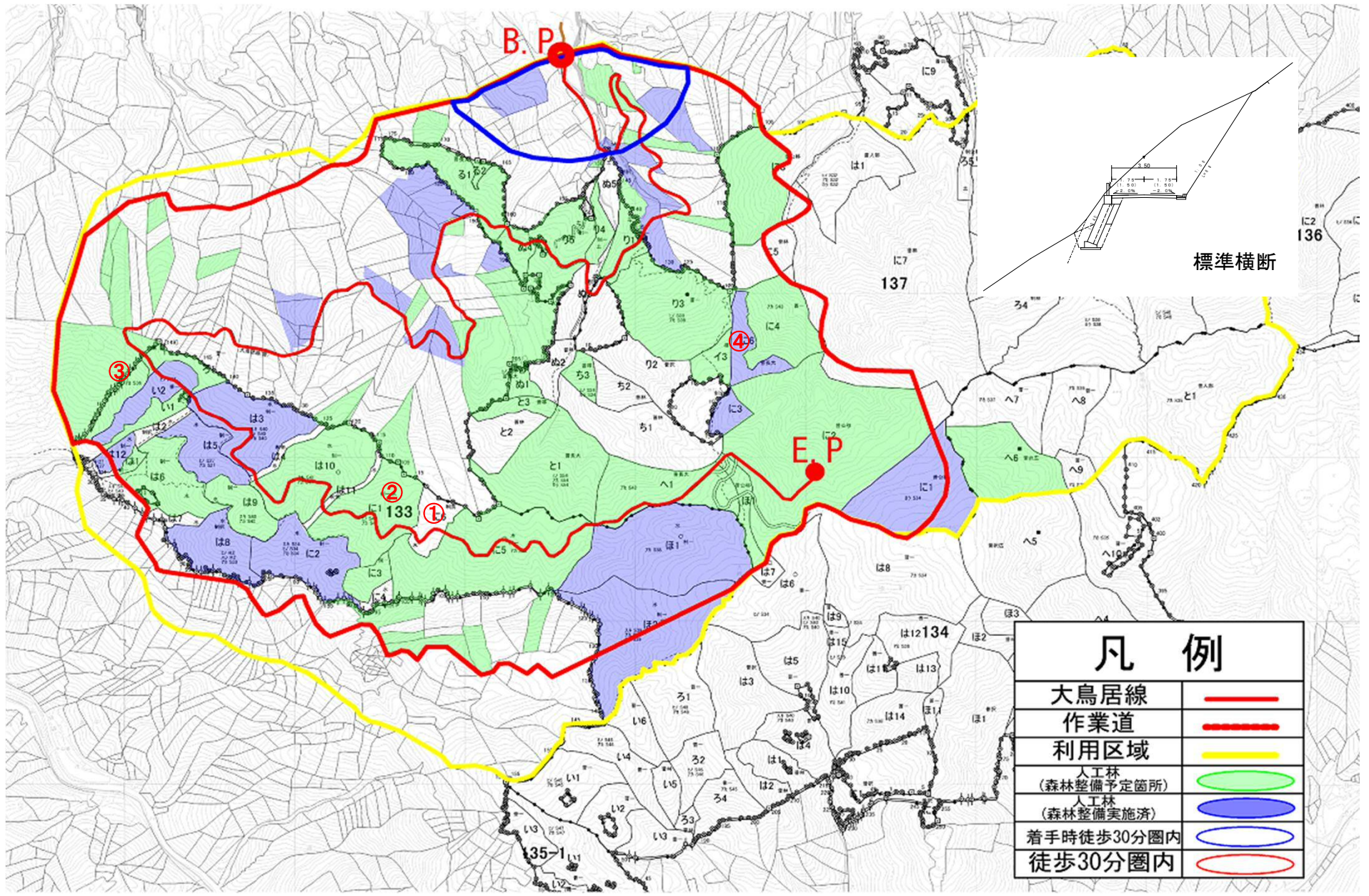
2.評価シート(1)

(1) 事業貢献度 (良)・不良	(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 (有)・無																																																																
<p>(理由) 本林道の開設により森林整備を効率的に行うことが可能となったことから、主伐、間伐等の森林施業が計画的に実施されだし、資源の循環利用及び森林の公益的機能の向上が図られている。</p> <p>①主要目標 森林整備の効率化 伐採対象人工林割合38.3%、利用区域内人工林率55.3%</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業着手時点数値等</th> <th>事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩30分範囲内の人口林率</td> <td>16.0(※)</td> <td>71.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 事前評価制度が当時はなかったため、今回改めて算出口評価 人工林の内、徒歩30分圏内の区域割合が基準値70%を達成。 奥地人工林へのアクセスが大幅に改善され、森林整備が効率的に実施されている。</p> <p>②副次目標 なし</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防火帯・延焼遮断帯の確保</td> <td>防火帯(防火線)として必要な幅である概ね10m以上を満たす(林業ハンドブック)防火帯を確保できた。</td> </tr> <tr> <td>リサイクルの推進</td> <td>以前は林内放置していた間伐材や現地発生材が、丸太柵工や逸散防止策工等に有効利用された。また、コンクリート等の塊を破砕した再生砕石を路盤材として利用した。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 なし</p>	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	徒歩30分範囲内の人口林率	16.0(※)	71.4	項目	内容	防火帯・延焼遮断帯の確保	防火帯(防火線)として必要な幅である概ね10m以上を満たす(林業ハンドブック)防火帯を確保できた。	リサイクルの推進	以前は林内放置していた間伐材や現地発生材が、丸太柵工や逸散防止策工等に有効利用された。また、コンクリート等の塊を破砕した再生砕石を路盤材として利用した。	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点</th> <th>再評価時点</th> <th>事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>2,424 百万円</td> <td>1,487 百万円</td> <td>1,401 百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>S61~H25</td> <td>S61~H25</td> <td>S61~H25</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td>S61</td> <td>H20</td> <td>H30</td> </tr> <tr> <td>費用</td> <td>— 百万円</td> <td>2,217 百万円</td> <td>3,127 百万円</td> </tr> <tr> <td> 建設費</td> <td>— 百万円</td> <td>2,076 百万円</td> <td>2,963 百万円</td> </tr> <tr> <td> 維持管理費</td> <td>— 百万円</td> <td>141 百万円</td> <td>164 百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>— 百万円</td> <td>3,111 百万円</td> <td>3,974 百万円</td> </tr> <tr> <td> 林業生産</td> <td>— 百万円</td> <td>935 百万円</td> <td>958 百万円</td> </tr> <tr> <td> 森林整備経費縮減</td> <td>— 百万円</td> <td>1,797 百万円</td> <td>2,557 百万円</td> </tr> <tr> <td> 災害等軽減</td> <td>— 百万円</td> <td>315 百万円</td> <td>388 百万円</td> </tr> <tr> <td> その他※</td> <td>— 百万円</td> <td>64 百万円</td> <td>71 百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C※※</td> <td>未算出</td> <td>1.40</td> <td>1.27</td> </tr> </tbody> </table> <p>※その他は、森林の総合利用便益ほか ※※費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。 (要因変化の分析) ○総事業費 線形の見直しやコスト縮減等により、H20再評価時より事業費を約6%縮減した。 ○便益 森林整備経費縮減便益の増加。</p> <p>(3) 事業実施による環境の変化</p> <p>①自然環境への影響 森林整備の実施により下層植生が繁茂し、保水能力の向上や降雨による表土流出が減少する等、公益的機能が増進している。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果発現状況(措置を講じた場合) なし</p> <p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>①社会経済状況の変化 なし ②関連計画・関連事業の状況の変化 なし ③事業環境等の変化 なし</p>	項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点	総事業費	2,424 百万円	1,487 百万円	1,401 百万円	工期	S61~H25	S61~H25	S61~H25	評価基準年	S61	H20	H30	費用	— 百万円	2,217 百万円	3,127 百万円	建設費	— 百万円	2,076 百万円	2,963 百万円	維持管理費	— 百万円	141 百万円	164 百万円	便益	— 百万円	3,111 百万円	3,974 百万円	林業生産	— 百万円	935 百万円	958 百万円	森林整備経費縮減	— 百万円	1,797 百万円	2,557 百万円	災害等軽減	— 百万円	315 百万円	388 百万円	その他※	— 百万円	64 百万円	71 百万円	B/C※※	未算出	1.40	1.27
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																															
徒歩30分範囲内の人口林率	16.0(※)	71.4																																																															
項目	内容																																																																
防火帯・延焼遮断帯の確保	防火帯(防火線)として必要な幅である概ね10m以上を満たす(林業ハンドブック)防火帯を確保できた。																																																																
リサイクルの推進	以前は林内放置していた間伐材や現地発生材が、丸太柵工や逸散防止策工等に有効利用された。また、コンクリート等の塊を破砕した再生砕石を路盤材として利用した。																																																																
項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点																																																														
総事業費	2,424 百万円	1,487 百万円	1,401 百万円																																																														
工期	S61~H25	S61~H25	S61~H25																																																														
評価基準年	S61	H20	H30																																																														
費用	— 百万円	2,217 百万円	3,127 百万円																																																														
建設費	— 百万円	2,076 百万円	2,963 百万円																																																														
維持管理費	— 百万円	141 百万円	164 百万円																																																														
便益	— 百万円	3,111 百万円	3,974 百万円																																																														
林業生産	— 百万円	935 百万円	958 百万円																																																														
森林整備経費縮減	— 百万円	1,797 百万円	2,557 百万円																																																														
災害等軽減	— 百万円	315 百万円	388 百万円																																																														
その他※	— 百万円	64 百万円	71 百万円																																																														
B/C※※	未算出	1.40	1.27																																																														

評価シート（2）

<p>（5）今後の事後評価の必要性 〈有・無〉</p> <p>（理由） 本地域では、林道の開設により森林整備を効率的に実施できる体制が整い、昭和61年度以降、主間伐などの森林整備を延べ205ha実施し、2,510m³の木材を搬出している。 今後の森林整備においても、県有林管理計画や市町村森林整備計画に基づき、確実に実施される見込みである。 以上のことから、事後評価を再度実施する必要は無いと考えられる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期： 年度 ・方法： 	<p>（7）同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>（理由） なし</p> <p>（具体的反映策） なし</p>
<p>（6）本事業における改善措置の必要性 〈有・無〉</p> <p>（理由） なし</p> <p>（具体的反映策） なし</p> <p>（既に実施した改善策の内容と効果） なし</p>	<p>（8）事業評価手法の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>（理由） なし</p> <p>（具体的反映策） なし</p> <hr/> <p>（9）その他特筆すべき事項 〈有・無〉</p> <p>なし</p>

3.添付資料シート(1)



凡 例	
大鳥居線	——
作業道	——
利用区域	——
人工林 (森林整備予定箇所)	○
人工林 (森林整備実施済)	○
着手時徒歩30分圏内	○
徒歩30分圏内	○

3.添付資料シート(2)



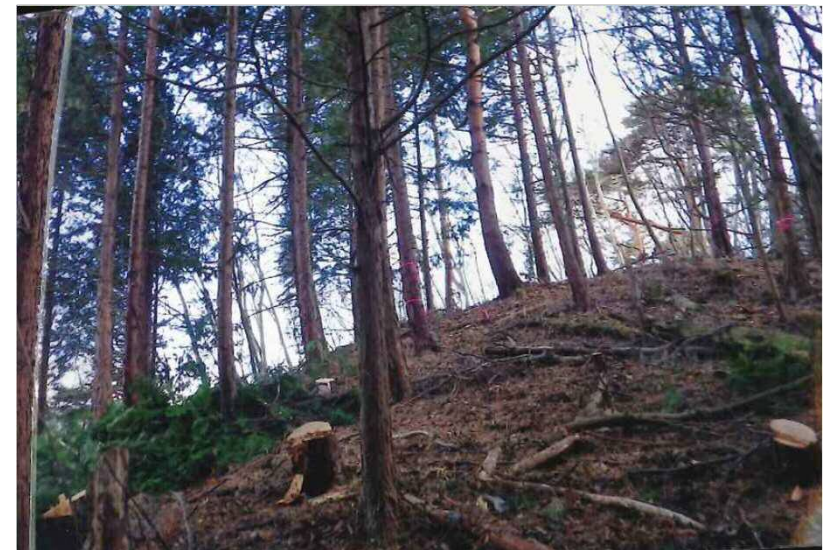
①林道の開設状況



②主伐計画箇所



③主伐跡地における地拵え後の状況



④森林整備(間伐)状況